

移 転 の 影 響

	現都市計画 (高架構造)	地下構造の場合			
		各インターチェンジがある場合		各インターチェンジがない場合	
		開削ボックス と考えられる区間	シールドと 考えられる区間	開削ボックス と考えられる区間	シールドと 考えられる区間
世田谷区内	約 330 棟	約 200 棟 約 270 棟	約 60 棟	約 130 棟 約 200 棟	約 110 棟
狛江市内	約 20 棟	-	約 20 棟	-	約 20 棟
調布市内	約 510 棟	約 180 棟 約 480 棟	約 30 棟	約 60 棟 約 150 棟	約 250 棟
三鷹市内	約 650 棟	約 280 棟 約 590 棟	約 60 棟	約 160 棟 約 340 棟	約 250 棟
武蔵野市内	約 240 棟	-	約 240 棟	-	約 240 棟
杉並区内	約 370 棟	約 60 棟 約 170 棟	約 200 棟	-	約 340 棟
練馬区内	約 890 棟	約 190 棟 約 550 棟	約 340 棟	約 130 棟 約 310 棟	約 550 棟
合計	約 3010 棟	約 910 棟 約 2060 棟	約 950 棟	約 480 棟 約 1000 棟	約 1760 棟

注 1) 地下構造の場合の建物数は、都市計画図を用いて、地下構造を想定した区市別の概ねの数であり、具体の調査・設計等により変動する概数です。

2) 内は、開削ボックスと考えられる区間のうち、完成後も地上の利用が困難と考えられる区間の建物数で、連絡路が地表に出る位置からと仮定。

3) 開削ボックスと考えられる区間には、工事後埋戻しをして地上を住宅や公園等に利用可能と考えられる区間と、地上部が連絡路等となり完成後も利用が困難と考えられる区間が考えられます。